

平成28年度 新学術領域研究（研究領域提案型）事後評価結果（所見）

領域番号	4301	領域略称名	自己制御精神
研究領域名	精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学		
研究期間	平成23年度～平成27年度		
領域代表者名 (所属等)	笠井 清登 (東京大学・医学部附属病院・教授)		
領域代表者 からの報告	<p><u>(1) 研究領域の目的及び意義</u></p> <p>人間の脳がつむぎ出す精神機能の最大の特長は、高度なメタ認知・言語能力と社会性の上に自我が成立し、その精神機能が再帰的に制御可能な点にある。これによって人間は自ら脳機能を制御し、意識的な自己発展を図ることができる。この「精神機能の自己制御性 (self-regulation)」は、進化の過程でヒト前頭葉が格段に発達した中で獲得されたもので、個体においても、前頭葉が成熟する思春期に確立する。思春期は、社会環境に適応した自己を形成するためのきわめて重要なライフステージであり、ここでの発達の歪みは、現代の若年層に見出される深刻なこころの問題や社会病理に多大な影響を及ぼす。本領域は、人間における自己制御精神の成立、思春期における発達過程を個人・集団レベルで解明し、分子から社会までの統合的・学際的アプローチで《思春期における自己制御精神の形成支援》を目指す新たな人間科学を確立することを目的とする。</p> <p>本領域の推進により、理性脳、感情脳、社会脳と進展してきた認知科学・脳科学を、「自我脳」のステージへと進展させることが期待される。また、少子高齢化社会を支えるべき若者の人間性の形成過程を総合人間科学的に理解する学際的な領域を確立することで、国際的な思春期科学の拠点形成するとともに、教育や社会に貢献することが期待される。</p> <p><u>(2) 研究成果の概要</u></p> <p>本領域は、再帰的概念であるがゆえにこれまで科学的アプローチが困難であった自我という構成概念について、精神・脳機能の自己制御とモデル化することにより、動物からヒトまでの研究の有機的架橋を実現し、自己制御が発達するステージである思春期の学際的研究を日本ではじめて本格的に推進した。A01 では、思春期コホートを立ち上げ、自己制御の発達心理学的基盤を解明した。A02 では、自己制御を支えるメタ認知について、動物における神経機構と対他環境における動態を明らかにするとともに、ヒトを対象として自己制御における言語の関与の神経機構を解明した。A03 ではこれらの知見をもとに、思春期における自己制御の不調からの回復の支援法について、分子、回路、心理・社会からのアプローチ法を開発した。なかでも、わが国初の大規模な思春期の総合人間科学的コホート研究を立ち上げ、思春期の自己制御の発達について独創的な知見を得たことや、国際的な思春期研究のネットワークを構築しえたことは、今後のさらなる展開につながる、特筆すべき成果であった。思春期科学についての教科書の出版、東京大学全学機構の設立、中学生向けこころの健康副読本の作成や出前授業などを通じて、その成果を教育や社会に還元した。</p>		

<p>科学研究費補助金審査部会 における所見</p>	<p>A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)</p>
	<p>本研究領域の設定目的に向けて、人間とそれ以外の動物の違いとして際立つ「思春期」に焦点を当て、思春期における自我の成熟や人間の精神機能の自己制御性をテーマとして、領域代表者の優れたリーダーシップの下、精神医学を中心に、神経科学、認知科学、心理学、言語学、教育学、疫学など、医学・生物学から人文社会科学までの幅広い分野の一流の研究者が有機的に結びついた研究が進められ、研究領域内で実施された共同研究数も 69 件となっている。</p> <p>5 年間の研究を通じて、思春期の集団コホートを立ち上げ、自己制御の発達心理学的基盤を解明し、対人場面や言語による自己制御のメタ認知、さらにヒトとそれ以外の動物の比較研究から進化基盤も検討した。また、臨床場面での自己制御形成・修復における新たな支援策も提案した。</p> <p>特に、本格的思春期コホートである東京ティーンコホートを立ち上げ、それを本研究領域全体の推進力として活用した点が高く評価できる。さらに、研究成果を教育や社会へと還元するために、「思春期学」についての教科書の出版、中学生向けの健康副読本の作成および配布、講演会開催等の意欲的な活動も行っている。そして、研究領域内からは、独立・昇進した研究者、常勤職を得た若手研究者を多数輩出することもできた。以上のように、本研究領域は自己制御に焦点を当てて「思春期学」と呼べる学際的な領域の創成に期待どおりの成果が認められ、今後一層の発展が図られることを期待する。</p>